国語科学習指導案

日　時　平成26年５月30日（金）２校時
対　象　２年１組（男子20名　女子19名　計39名）
指導者　教　諭　　林　　涼　　子

１　単元名　「対話」で読み深めよう　～新聞を読み解く～

２　単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代は情報伝達手段が多様化し，容易に情報を発信したり受信したりすることができるようになった。特に，多種多様な情報を迅速に入手することができるインターネットは，生活に欠かせないものになりつつある。一方，新しい情報や多様な情報を容易に，迅速に入手できる分，情報の真偽や公平さについて考えたり，時間をかけて吟味し，自分なりの意見や考えをもとうとしたりする意欲や態度が育ちにくくなってきている。

このような状況の中，多くの中学生が，容易に入手した情報を鵜呑(うの)みにしてしまう傾向にある。また，情報を収集する際に，発信者の目的や意図に着目したり，他の見方や考え方はできないかを調べたりする姿勢に欠ける傾向にある。さらに，図書や新聞等の情報よりテレビやインターネット等の映像化された情報や簡略化された情報を受け入れやすいという傾向も見られる。

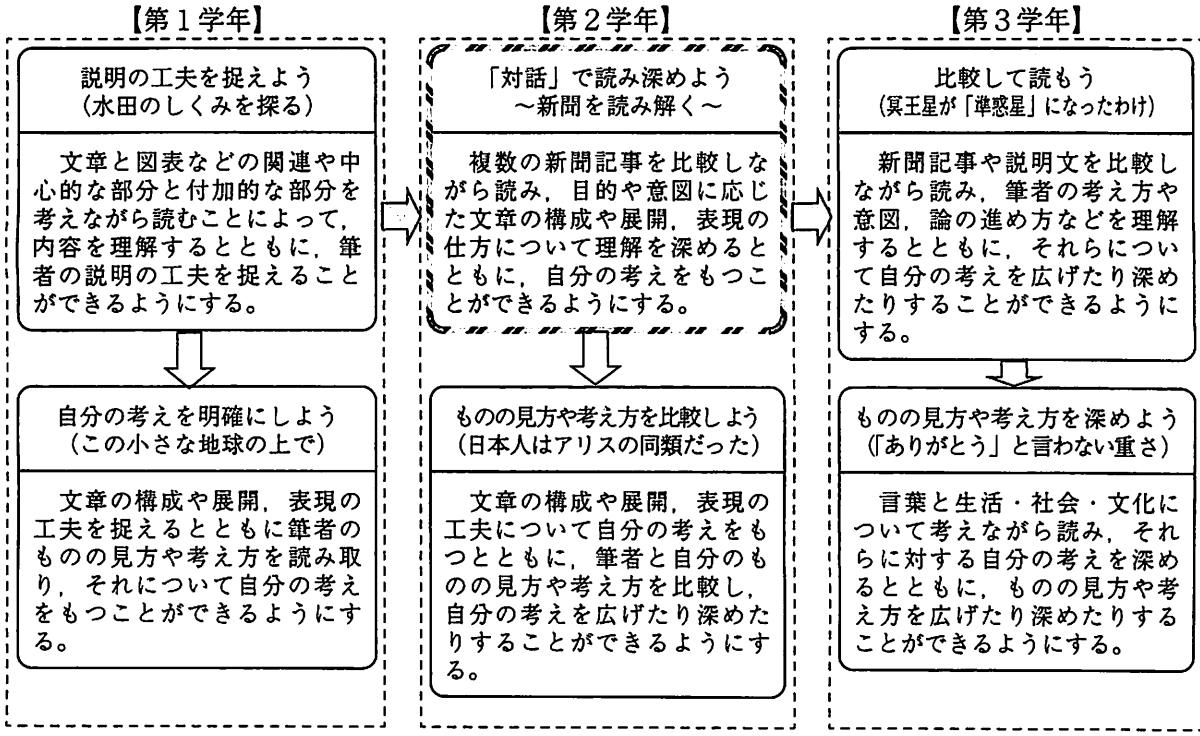
そこで，新聞の多様性や魅力を実感させるとともに，自分の目的や必要に応じて情報を収集・選択しようとする態度を育成するために，新聞の特徴や利点，新聞から情報を得る際の留意点等に気付かせたいと考えて本単元を設定した。また，他者と建設的に「対話」をしながら複数の新聞記事を読み深める活動を通して，文章を解釈する力や自分の考えを形成する力を高めたい。

本単元で教材として用いる新聞記事は，2014年２月に行われたソチオリンピックにおける浅田真央選手の活躍を取り上げたものである。大半の生徒が，浅田選手の活躍を知っており，興味をもって学習に取り組むことができる。また，同じ話題であっても，新聞社によって取り上げる事柄や叙述の順序，表現の仕方が異なるため，それらを比較することによって，書き手の思いや目的や意図に応じて書き方が工夫されていることに気付くことができる。

具体的には，まず，新聞の一面について，レイアウトの特徴や見出しの効果，リード文の役割，文章の内容や表現の工夫等を捉えさせ，新聞の役割や活用の仕方を理解させる。次に，複数の新聞記事を比較しながら読み深めさせることによって，同じ話題でも書き手の思いや目的，意図によって，取り上げる事柄や叙述の順序，表現の仕方が異なることや，それらのことに留意しながら読むことによって，書き手の伝えたいことをより的確に理解できることを捉えさせる。なお，読み深めさせる際には，グループや全体での「対話」を重視し，建設的に話し合わせることによって個々の意見や考えを広げたり深めたりさせたい。

このような学習を通して，生徒は，より的確に情報を受信したり発信したりしようとする態度を高めることができる。また，他者と「対話」を行うことによって考えを広げたり深めたりする活動を通して，創造的に思考する力を高めることができる。

(2) 連関的意義



3　単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

(1) 複数の新聞記事を積極的に比較し，それぞれの文章の特徴やよさを捉えることによって，目的や意図に応じた書き方や読み方について理解しようとすることができる。
(2) 複数の新聞記事を比較しながら読む活動を通して，目的や意図，筆者の思い等に応じた表現の仕方について理解を深め，それらを踏まえて読むことの大切さを理解することができる。
(3)「対話」によって自分の意見や考えを広げたり深めたりする活動を通して，情報の収集における留意点等について自分なりの考えを深めることできる。
(4) 相手や目的に応じて，文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評　価　規　準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	①　複数の新聞記事の比較を通して，それぞれの文章の特徴や書き方の工夫を進んで捉えるとともに，文章の要旨や筆者の思い，目的や意図に応じた書き方や読み方を理解しようとしている。	
読む能力	②　一面に掲載されている新聞記事を，見出しやリード文，本文の内容等に着目しながら読む活動を通して，新聞社や書き手の目的や意図に応じてレイアウトや取り上げられた事柄や叙述の順序，表現の仕方等が工夫されていることを理解している。 ③　同じ話題について書かれた二社の新聞記事（一面）を比較する活動を通して，目的や意図に応じて取り上げる事柄や叙述の順序，表現の仕方等が異なることを理解するとともに，書き方によって読み手に与える印象や伝わってくるものが異なることを理解している。 ④　同じ話題について書かれた二社の「コラム」を比較する活動を通して，筆者の伝えたいことや思い，工夫されていることに留意しながら読むことの大切さを理解している。 ⑤「対話」によって自分の意見や考えを広げたり深めたりする活動を通して，建設的に話し合うことの大切さを理解するとともに，情報を収集する際に留意することについて自分の考えを深めている。	イ　文章の解釈 ウ　文章の構成や展開，表現の仕方等
言語についての知識・理解・技能	⑥　新聞記事は，不特定多数の読者が読むことから，できるだけ多くの人が読みやすく，分かりやすいように，形態や展開が工夫されていることを理解している。	イ　言語の特徴やきまりに関する事項 (オ)

4　単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア　生徒の実態から

生徒はこれまでに，文章の構成や展開，表現の仕方等について工夫された説明文を読み深め，目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする力や文章の構成や展開，表現の仕方について，自分の考えをもつ力を高めてきている。また，本学級では，具体的に次のような実態が見られる。

- ほとんどの生徒が，進んで音読や黙読をし，段落の要点をまとめたり要旨となる段落を指摘したりすることができる。
- 文章の構成や展開，表現の工夫をある程度捉えることはできるが，その意図や効果等について自ら捉えるまでに至っていない。
- 二つの文章を比較し，共通点や相違点を探ることはできるが，その根底にある書き手の目的や意図まで進んで理解しようとする生徒は少ない。

このような実態から，指導に当たっては，読みの視点を明確にすることによって，筆者の表現の工夫や目的や意図を生徒自ら捉えることができるようにしたい。また，筆者の思いや目的や意図に応じた書き方やその効果に気付かせるために，同じ話題について書かれた複数の新聞社の記事を比較させ，同じ話題なのに取り上げる事柄や書き方が異なる理由について考えさせたい。さらに，他者との「対話」を重視し，建設的に話し合わせることによって，生徒が自ら読み深め，自分の意見や考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。

イ　本校の研究内容との関連から

(ア)「対話」の活性化の工夫

本校では，「読むこと」の学習において，生徒の思考の広がりや深まりを促すために，複数の文章を比較する活動を大事にしている。明確な観点をもって比較することによって，いずれか一つ，またはそれぞれのよさが明白になり，表現されたものや表現の仕方の適否，正誤，美醜等について，生徒が，自己内対話を活発に行い，自ら思考し，判断することができるようになるからである。また，自ら思考し，判断したことを客観化させたり，思考を深めさせたりするために，他者との「対話」を重視している。他者との「対話」を通して，「比較」したものが，吟味されたり，価値付けられたりするとともに，よりよい考えや新しい考えを構築するために一人一人が創造的に思考することになると考えるからである。

本単元では，複数の新聞社の，話題が同じ記事を教材とし，それぞれの特徴やよさについて分析させたり，それらを比較しながら，新聞に掲載したい写真に添えるのに適した文章や，文章に適した見出しなどを選ばせたりすることによって，意図的に「対話」が起こる状況を設定することにした。そうすることによって，生徒が自ら，目的や意図に応じた書き方や読み方を理解していくものと考える。

教材とする新聞記事は，同じ話題でありながら，その話題に関するエピソードの取り上げ方や，叙述の順序，表現の仕方等が明らかに異なるものである。そのため，生徒が，それらを比較することによって，書き手がどのような目的や意図でそのような文章にしたのか，読み手として，それぞれの文章からどのような印象を受けるか等について，様々な考えや意見をもつことが予想され，「対話」が活性化するものと考える。

さらに，「対話」によって教材を読み深めさせる際には，その「対話」が建設的に行われなければならない。そのために，各時間ごとに，「一枚の写真に最も適した記事を選ぶ」「筆者の思いがより的確に伝わる見出しを選ぶ」というゴールを設定することにした。生徒は，ゴールに到達するために，根拠を明確にしながら建設的に他者との「対話」を行うため，「対話」が活性化するものと考える。

(イ) 「対話」の深化の工夫

「対話」を深化させるためには，個々でしっかり考えや意見をもたせた上で，比較的意見が出しやすいグループでの「対話」を行わせた後，全体での「対話」を行わせるのが有効である。生徒は，自分の考えや意見をもつことによって，「対話」への意欲を高めることができる。また，少人数のグループでそれぞれの考えや意見を比較することによって，自分の考えや意見に自信をもったり，広げたり深めたりすることができる。さらに，全体での「対話」を行うことによって，それまで気付かなかった考えや意見に気付くことができ，新たな考えや意見を構築することができるようになるものと考える。

(2) 単元の指導計画（全６時間）

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評　価
導入	1　単元を概観し，複数の新聞記事を比較しながら読み深めていく学習であることを確認する。	1	・　本単元は，複数の新聞記事を比較しながら読む活動を通して，目的や意図に応じた書き方や新聞の読み方等について理解を深める学習であることを確認させる。	
	2　新聞の一面を分析し，目的や意図に応じたレイアウトや書き方の工夫を捉える。	1	・　新聞の一面の内容やレイアウト等を分析させ，目的や意図によって紙面が工夫されていることや，伝えたいことを分かりやすく伝えるために，表現の仕方等を工夫していることを理解させる。	評価規準①②⑥ 観察・ノート ワークシート
展開	3　二社の新聞記事を比較し，それぞれの記事で取り上げられている事柄や順序，表現の仕方等の共通点や相違点を捉える。	1	・「共通する語句」と「一方だけに使われている語句」に着目させた上で，「取り上げられている事柄」「叙述の順序」「表現の仕方」等について分析させる。	評価規準①③⑤ 観察・ノート ワークシート
	4　前時で分析したことを基に，それぞれの文章の特徴やよさを捉える。	1 本時	・「一枚の写真に添える文章として，よりふさわしいものはどれか」という視点から，文章を比較させることによって，目的や意図に応じた工夫がなされていることに気付かせる。 ・　他者との「対話」を通して，自分の考えやその根拠を見直させるとともに，考えを広げたり深めたりさせる。	
	5　二社の新聞の「コラム」を比較し，共通点や相違点を探る。 6　共通点や相違点を基に，それぞれの文章の特徴やよさを捉える。	1	・　同じ話題を取り上げた異なる新聞社の「コラム」を，「話題の中心は何か」という視点から分析させる。 ・　分析したことを基に，話題の中心を適切に表現した「見出し」を考えさせ，最も適していると思うものを選ばせることによって，それぞれの文章には筆者の伝えたいことや思いが込められていることを理解させる。 ・　他者との「対話」を通して自分の考えを広げたり深めたりさせることによって，「対話」の意義を実感させる。	評価規準①④⑤ 観察・ノート ワークシート
終末	7　学習を振り返り，新聞から情報を得る際に注意することや，「比較」や「対話」の意義についてまとめる。	1	・　情報の収集の仕方や「比較」や「対話」の意義等，分かったことやできるようになったことを自己評価や相互評価によって明確にさせ，自覚を促す。	

5　本時の指導（4/6）

(1) 指導目標

同じ話題を取り上げた二社の新聞記事を，「対話」を通して読み深める活動を行うことによって，それぞれの文章は目的や意図に応じて書き方が工夫されており，同じ話題でも読み手に与える印象が異なることを理解することができる。

具体的には，主として評価規準③に即して，次の「読むこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	新聞に掲載する一枚の写真に，よりふさわしい文章を，「対話」を行いながら選ぶ活動を通して，それぞれの筆者がどのような目的や意図で，取り上げる事柄や叙述の順序を決め，表現を工夫したかを自ら洞察し，理解するとともに，書き方によって読み手に与える印象や伝わってくるものが異なることを理解している。
おおむね達成されている	新聞に掲載する一枚の写真に，よりふさわしい文章を，「対話」を行いながら選ぶ活動を通して，目的や意図に応じて取り上げる事柄や叙述の順序，表現の仕方等が異なることを理解するとともに，書き方によって読み手に与える印象や伝わってくるものが異なることを理解している。
達成していない生徒への手立て	・　形式段落ごとに取り上げられている事柄や語句，表現の違いを確認させ，それらの違いによって伝わるものが異なることに気付かせる。 ・　「写真からどのような印象を受けるか」について具体的に言葉にさせ，その印象に近い語句や表現を探させる。

(2) 目標行動（G）

よりふさわしいと思う文章を選ぶ活動を通して分かったことを，例えば次のように発表することができる。

> 同じ話題を取り上げた文章でも書き手によって取り上げる事柄や叙述の順序，表現の仕方が異なり，それらの文章から受ける印象も異なる。このことから，新聞社や筆者は，何をどのように伝えるかを考えて，目的や意図に応じて書き方を工夫していることが分かった。また，話題によっては，事実のみを伝えるのでなく，筆者の思いや話題の対象である人物の思い等にも触れながら書かれていることが分かった。読み手は，同じ話題でも，多様な伝え方があることを踏まえた上で，その記事が伝えようとしていることを理解し，それに対する自分の考えをもちながら読もうとする姿勢をもつことが大切である。

(3) 下位目標行動

① それぞれの記事にふさわしい見出しを指摘することができる。

② 二社の新聞記事の違いについてまとめ，例えば次のように発表することができる。

> ○　Aは，佐藤コーチの指導のもと，スケートをやめたいと思うほどのスランプを乗り越え，五輪のフリーですばらしい演技をしたことを伝えるのが目的で，Bは，五輪史上，6種類のトリプルジャンプを8回着氷した初の女子選手になった浅田選手のすばらしさを伝えるのが目的である。
> ○　Aは，浅田選手のすばらしい活躍の陰に佐藤コーチとの地道な努力があったことを中心話題とし，Bは，3回転ジャンプを修正する過程を中心話題としている。
> ○　Aは，佐藤コーチとの絆を強調しており，Bは，3回転ジャンプの修正がいかに大変だったかを強調している。そのため，Aからは，浅田選手と佐藤コーチとの関係や絆を読み取ることができ，Bからは，努力が実を結ぶまでの浅田選手の気持ちの変化を読み取ることができる。
> ○　Aは，「焦りを覚えた」「弱音を吐く浅田」「意を決して」のように，浅田選手の気持ちを客観的に書いている。Bは，「涙がたまってこぼれた」「負けずに涙を流して反論」「苦痛だった」「深いため息」「迷いなく跳んだ」等のように，浅田選手の視点から気持ちが書かれている。また，Aには，「とんでもない選手を…」のように佐藤コーチの気持ちを表す語句も用いられている。そのため，Aは，浅田選手と佐藤コーチ両方の立場や思いを読み取ることができ，Bは，浅田選手の思いを読み取ることができる。

③ 全体の場で，どちらの文章が一枚の写真によりふさわしいと思うかを，理由を明確にしながら発表し，互いの意見や考えを練り上げることができる。

④ 修正したことを基に，同じ文章を選んだ者同士で，異なる文章を選んだ人を納得させるための理由をまとめることができる。

⑤ 異なる文章を選んだ者同士で，互いの考えを発表し合い，納得できない点等について「対話」を行うことによって，自分たちの考えを修正することができる。

⑥ 選んだ文章が同じ者同士でグループを作り，なぜその文章を選んだのかについて「対話」を行うことができる。

⑦R　前時の学習で自分が選んだ文章とその理由を確認することができる。

⑧R　本時の学習課題を「自分が編集長だったら，どちらの文章を新聞に掲載するだろうか。」であると確認することができる。

⑨R　本時の学習目標を「一枚の写真に，よりふさわしい文章を選ぼう。」であると確認することができる。

⑩R　二つの文章を音読することができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
	スタート	<導入>	
5'	二つの文章を音読し，本時の学習目標や学習課題を確認する。 1 (⑩R,⑨R ⑧R,⑦R)	・ 二つの文章を音読させるとともに，前時の学習を振り返らせることによって，学習に対する意欲を高めさせる。 ・ 本時は，一枚の写真に，よりふさわしいと思う文章について，なぜそう思うのかを「対話」を通してより明確にし，どちらかを選ぶ学習であることを確認させる。 <学習目標> 一枚の写真に，よりふさわしい文章を選ぼう。 <学習課題> 自分が編集長だったら，どちらの文章を新聞に掲載するだろうか。	
10'	同じ文章を選んだ者同士によるグループで，選んだ理由について「対話」を行う。 2 (⑥)	<展開> ・ 同じ文章を選んだ者同士でグループを作らせ，互いの考えを広げたり深めたりさせる。 ・ 違う文章を選んだグループとの「対話」を行うための準備として，相手を納得させるような理由をグループ内で共有させる。 ・ 説得力をもたせるために，根拠となる語句や表現を明確にさせる。	○ 「対話」を通して，理由をより明確にするとともに，自分の考えを広げ深めることができたか。 (発表・観察・ワークシート)
10'	異なる文章を選んだ者同士で「対話」を行い，自分たちの考えを広げ，深める。 3 (⑤)	<達成していない生徒への手立て> ・ 形式段落ごとに取り上げられている事柄や語句，表現の違いを確認させ，それらの違いによって伝わってくるものが異なることに気付かせる。 ・ 「写真からどのような印象を受けるか」について具体的に言葉にさせ，その印象に近い語句や表現を探させる。 <達成している生徒への手立て> ・ それぞれの文章の書き手の立場に立って，どのような目的や意図で取り上げる事柄や叙述の順序を決め，表現を工夫したのかを考えさせる。	
10'	同じ文章を選んだ者同士で，相手を納得させるための理由をまとめる。 4 (④)	・ 異なる文章を選んだ者同士の「対話」を通して，自分たちが気付かなかった文章の特徴やよさに気付かせる。	
10'	全体で発表し合い，どちらの文章が写真によりふさわしいかについて「対話」を行う。 5 (③,②)	・ 相手を納得させるためには，明確な根拠に基づいた理由が必要であることを実感させ，より的確な理由をまとめさせる。 ・ 全体での「対話」を通して，同じ話題であっても伝えたいことが異なり，それらに応じて表現等が工夫されていることを理解させる。また，筆者の思いや書き方によって，読み手に与える印象も異なることを確認させる。	◎ 二つの文章の特徴や目的や意図とそれらに応じた工夫について理解することができたか。 (発表・観察)
5'	学習のまとめをし，次時の学習について確認する。 6 (①)	<終末> ・ それぞれの文章にどのような見出しが付けられているか考えさせ，筆者が伝えたかったことを明確にさせる。 ・ 新聞記事は事実を伝えるだけでなく，筆者の思いや話題の対象である人物の思い等にも触れる場合があることを理解させる。 ・ 今日の学習で分かったことやできるようになったことを確認させ，これからの学習に役立てようとする意欲を高めさせる。	○ 新聞の特徴や役割について理解することができたか。 (発表・観察・ワークシート)
	ゴール		